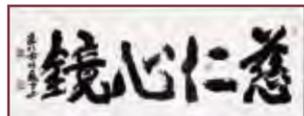




# 関西医科大学 広報

*Kansai Medical University Public Relations*



## 建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

# 構想実現 始動年の「初日の出」



附属枚方病院13階からの眺望。元旦の午前7時47分撮影(露出:F16 1/500秒)

## C O N T E N T S

法人	2	病院	7
年頭所感 理事長	2	卒後臨床研修センター	10
新年のご挨拶 学長	3	医療安全管理センター	13
香里病院元年	4	附属看護専門学校	13
大学	5	同窓会	14
学事	6	メディア情報	15

## 法 人

## 年頭所感

## 総合長期計画が完了すれば安定経営に

## 理事長 塚原 勇

新年おめでとうございます。本年もよろしく願い申し上げます。

ご承知の通り、本学では急速に進行する医学、医療の進歩に対応して、旧式化した附属病院、教育・研究施設を系統的に新築する総合計画が立案され、必要諸会議で認められ、まず最初に枚方市に700床の近代的な新附属病院が完成し、平成18年1月に開院しました。病院長をはじめ、全職員の努力により、経営は私の想像以上に好成績をあげております。一方附属香里病院の一旦閉院があり、人事異動の影響をまともに受けた附属滝井病院は、大きな影響を受けましたが、これも病院長をはじめ職員全員の努力により最近はかなり回復してまいりました。

もう1つ、附属男山病院を他の医療法人に譲渡し、一部の職員は一定期間男山病院に残り、一旦閉院され、新しい病院として生まれ変わる香里新病院の開院によりこの新病院に移ります。新しい香里病院は今年5月に完成し、7月に開院します。病院の付近は、新しい高層マンションなどの建築も予定されており、京阪電車駅前付近にも新鮮な環境が生まれそうです。

このように、本学の附属病院も、枚方病院、滝井病院、新香里病院の3病院となり、本学施設に複雑な変化が起り、皆さんもやや混乱するような状態がしばらく続きましたが、状態も落ち着いてきて、ここに教育、研究を含む学舎の建設計画が前面に出てきました。既に計画が着々と進んでいます。枚方新病院の隣に並んで建設されます。現在の計画では、平成23年1月に着工し、平成25年1月竣工、同年4月から使用開始の予定です。最初、新学舎の中に設



年頭挨拶する塚原理事長(滝井地区にて)

置が予定されていた附属看護専門学校の施設は、教養部が枚方の新学舎へ移転した後の牧野学舎の敷地に建築をされる予定です。

最後に現在の附属滝井病院は、新学舎の完成後改修工事が始まる予定です。出来れば新学舎工事の終了前から改修工事を始めたいと思います。

以上複雑で理解し難い件もあったかと思いますが、これらの施設が完成した時、本学の施設に関する総合長期計画は完了し、以後当分は大きな出費はなく、借財も次第に減少し、安定した経営状態が続きます。大学の施設水準は国際的に見ても見劣りしないものになると思います。もちろん、大学の評価は施設の水準のみでは決められません。中にいる人材が優れた施設を利用し大きな成果をあげる高い水準の人材が揃わねばなりません。われわれは出来るだけ高い水準の施設、設備等を提供すべく努力します。教職員をはじめ、職員の皆さんはそれによって相応の成果をあげてくださることを期待します。

## 滝井・枚方で新年賀詞交換会

平成22年の本学新年賀詞交換会が仕事始めとなる1月4日(月)午後2時から滝井地区(附属看護専門学校を含む)は病院6階大講堂で、午後3時30分からの枚方地区(教養部・男山病院を含む)は病院13階講堂で、塚原勇理事長、山下敏夫学長、徳永力雄常務理事、そして教職員多数が参加して行われました。

滝井・枚方の両会場とも塚原理事長、山下学長の新年挨拶があり、「今年は、香里病院開院の年」「枚方学舎建設に向け始動する年」と明るい展望とともに、教職員への協力を述べられました。=写真は、枚方地区での賀詞交換会



## 新年のご挨拶

## 新学舎に向け「動き始める」寅年

学 長 山下 敏夫

新年おめでとうございます。皆様には健やかで輝かしい新年を迎えられたことと思います。

新しい年を迎えるにあたり、昨年を振り返りながら、新年度へ向けての目標、願いをお話したいと思います。

昨年は民主党が政権を取り、政治の流れが大きく変わりました。民主党のマニフェストでは医療崩壊の元凶である低医療費政策が見直されると期待されましたが、事業仕分けなどを見ていると必ずしも楽観的とはいえません。私共に直接関係する高等教育や科学研究費の動向、医学部定員増問題、診療報酬改訂の成り行きなどに目が離せない年になりそうです。

教育面においては、本学は昨年医師不足特別枠として10名の医学部定員増を行いました。特別枠の学生を含め新入生は順調に勉学に励んでいます。また昨年入試センターを新設したことや、一般入試日の前倒しなどで本年は受験者数の増加を、またそれによるより質の高い学生の入学を期待しています。学部教育では新設した教育医長制度、クラスアドバイザー支援強化、海外臨床実習先の倍増などで、きめ細やかなかつ充実した医学教育を目指します。医師国家試験は昨年は現役で98%の合格率でしたが、本年は悲願の100%を心から願っています。

卒後の教育に関して、昨年本学の初期研修医の定員が残念ながら削減されました。しかしその定員に対してフルマッチングし、本年は昨年より約20名多い初期研修医を各附属病院に迎えることとなります。さらに本年は後期研修医の確保に全力を尽くしたいと考えています。昨年創設した「神の手」のようなスーパードクターを育てるための臨床留学制度により、本年は2名の新進気鋭の医師が留学します。この制度の発展と成果を期待します。また、女性医師就業支援のために「短時間勤務正職員制度」を全国の医科大学に先駆けて、本年4月から施行するなど種々のキャリアアップ計画を進めたいと思います。

研究面においては、附属病院で働きながら大学院生として研究も行える新しい臨床系社会人大学院制度による初めての大学院生が誕生する見込みです。またこれも初めての試みである共同研究講座が4月から1つ開講します。さらに総合大学と医科大学との共同研究に向けたシステム作りも始めます。一時低迷していました科研費の申請・採択率も回復傾向にあり、昨年は特にJSTの採択が倍増しました。施設面で必ずしも良い研究環境と言えない中で、新学舎オープンまでの間、創意工夫をし、研究力維持



新年挨拶する山下学長(枚方地区にて)

に努めたいと考えています。

教育・研究面のトピックスは何と言っても本年がいよいよ新学舎建設計画の実質上のスタートの年になることです。元々平成11年に本学の将来展望の大綱方針が立てられ、枚方病院完成の10年後に新学舎を建設することが決定されていました。それを3年前倒し、平成25年春のオープンを目指しています。今、新学舎建設が急がれている理由は、キャンパスが3ヶ所に分散し、アメニティーも不十分で学生の教育環境の悪化が心配され、質の良い学生の獲得も厳しくなることへの懸念、研究活動においても枚方病院に研究室が無く、医科大学にとって致命的と言える状態であり、研究力の低下、しいてはこれが経常費補助金の減少にも繋がること、さらに、過去20年間の新築・改修工事の大半は病院関係においてであり、教学関係は殆どなされておらず施設の老朽化が著しいことなどです。これらの多岐にわたる諸問題を勘案し、良医が育成され、活力ある研究がなされる環境の整備を早急に行うことが検討され、この度の建設計画が立てられました。新学舎のアウトラインについては、昨年11月末に発刊された本学の広報Vol.7に記載されていますので、詳細は述べませんが、「エコ&グリーン」を基本コンセプトにした、学生や教職員のアメニティーを重視し、加えて最新の研究施設を備えたものになりますのでご期待ください。なお新学舎建設の資金については、従来から本事業のために積み立ててきた資金に、今後5年間で積み増しをし、さらに寄附金、助成金も見込み、無借金での建設を予定しています。

本年の干支は寅年です。「寅」の意味するところは、「動き始めるもの」とされています。新しい香里病院が開院し、また新学舎計画を開始するのに本年はまさに最適の年と思います。皆様のご協力でこれらの計画が順調に進むことを心から願っております。

あらためて今年2010年の皆様とご家族のご多幸をお祈りして、新春の挨拶とさせていただきます。

## 法人

## 香里病院元年 200床 透析・夕診も、5月竣工へ

医療担当理事 新宮 興



新年明けましておめでとうございます。平成22年は新しい香里病院開院の年となります。工事は順調に進み、5月には竣工の予定となっています。

当初の予定では8月開院としていましたが、さらに早めることが可能か検討しているところです。本年は大学にとっては平成18年に次ぐ第二次病院再編の年となります。香里病院の開院に伴って附属滝井病院の再編も実施します。将来は大学本部、専門部、教養部の枚方地区への移転、看護専門学校の牧野地区への移転、さらに附属滝井病院の改築と大学施設を次々と新しくする計画となっています。香里病院の開院によって、本学の附属3病院は京阪沿線に並び、北河内二次医療圏の医療を大学が責任を持って行うことを明らかとすることになります。

香里病院は200床の小規模大学附属病院となります。京阪香里園駅から歩道橋を経て直接病院2階のメインエントランスへ入るアクセスが極めて至便な病院です。小規模病院の特性を生かし、教職員がコミュニケーションよく患者に対応できる病院にしたいと考えています。もともと香里病院は旧附属香里病院の廃院に際して寝屋川市住民の再開院を求める強い要望に沿って開院する病院です。以前の附属香里病院と同様に地域に根ざした病院、地域住民・医師会に信頼される病院を目指しています。13診療科(内科、外科、乳腺外科、整形外科、小児科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、婦人科、麻酔科、放射線科、リハ

ビリテーション科)が診療を行います。これまで本学附属病院になかった機能としては維持透析および夕診(当初は内科、小児科)を開始します。初めは内科中心の病院と位置付けていましたが、診療単価を上げるためにも外科系の診療科を充実することとしました。200床の小規模病院であることから設備面、人員面からも不足する状況が生じます。特定機能病院である附属枚方病院と近くに位置しますので両病院の緊密な連結が求められます。

香里病院は旧香里病院の土地・設備の売却、寝屋川市からの補助金、移転補償金によって土地、施設、設備を賄います。開院が年度途中であることから収入のない期間の人件費支出が生じます。同規模の附属男山病院の実績、開院時の附属枚方病院の患者数や診療単価の動向を基に予算を編成しています。200床は経営が困難な規模ですが、最近の枚方・滝井両病院の経営を手本に収支を考慮した機能的病院経営を行っていきます。入院患者数は開院6ヵ月で目標の稼働率である85%を、外来患者数は開院1年後に目標の686人を達成することを目指しています。職員は医師37人、看護師130人、医療技術職29人、事務職21人、パート他46人の計263人を予定しています。看護師は男山病院から異動する看護師が中心となります。1年間の男山病院への出向期間の間にはいろいろ不安・不満もあったと思いますが、新しい病院で心機一転して活躍されることを望みます。

本年は本学の将来計画達成へ向けての第二次病院再編の年、「香里病院元年」です。教職員の皆様の香里病院へのご支援をお願いいたします。

## 寄付金は税制上の優遇措置の対象になります

## ～寄付者が法人の場合～

本学に対する寄付は、税制上の優遇措置(寄付金控除)の対象とされており、次の2種類により寄付金額の全額または一部が損金に算入されます。

## 1) 受配者指定寄付金

日本私立学校振興・共済事業団を通じて学校法人へ寄付していただく制度で、寄付金全額が損金に算入されます。日本私立学校振興・共済事業団と本学との事務手続きにより、受領書送付までに2ヵ月近くかかります。

## 2) 特定公益増進法人寄付金

寄付金額のうち、一般寄付金の損金算入限度額と特別損金算入限度額の合計額までが損金に算入できます。大学への直接寄付ですので、ご寄付をいただき次第、受領書を送付いたします。

一般損金算入限度額 = (資本金等×0.25%+当該年度所得×2.5%)×0.5

特別損金算入限度額 = (資本金等×0.25%+当該年度所得×5.0%)×0.5

例えば…◎資本金が5,000万円、所得が4,000万円の場合の限度額 合計1,625,000円

一般損金算入限度額 (125,000円+1,000,000円)×0.5= 562,500円

特別損金算入限度額 (125,000円+2,000,000円)×0.5= 1,062,500円

これから決算期を迎える法人の方々には、上記税制優遇措置をご活用いただき、本学への寄付をご検討下さいようお願いいたします。

※詳しくは、関西医科大学募金室(TEL 06-6993-9556)までお問い合わせ下さい。

ホームページURL <http://www2.kmu.ac.jp/bokin/>

法人

受章

平成21年度支払基金関係功績者厚生労働大臣表彰

産婦人科・堀越准教授が受章



このほど、産科学婦人科学講座・堀越順彦准教授が平成21年度社会保険診療報酬支払基金関係者功績者厚生労働大臣表彰を受章されました。10月23日(金)午後、東京都千代田区内で行われた表彰式に出席した堀越准教授は、長妻昭厚生労働大臣から直接、表彰状を受けました。

この表彰は、社会保険診療報酬支払基金の審査の充実向上に貢献、医療保険制度の健全な発展に寄与した功績によるものです。

平成21年度医学教育等関係業務功労者表彰

解剖学第二・山下技術員が受章



平成21年度医学教育等関係業務功労者に解剖学第二教室・山下文夫主任教務技術員が選ばれ、11月25日(水)東京都内のホテルで行われた表彰式に出席、文部科学大臣表彰を受章されました。

文部科学省では、医学教育等の関係業務において特に功績顕著な者に文部科学大臣表彰を行っており、今年度は、山下さんが29年余の永きにわたって解剖実習の円滑な遂行に寄与したとして功績が認められたものです。

大学

高度医療人育成制度を適用 2名が本学初の臨床留学

高度医療人育成制度の制定後、初めてとなる「臨床留学」候補者が2名決まりました。この制度はいわゆるスーパードクターの育成を目的とするものです。12月8日(火)の専門部教授会で正式に承認されたのは、胸部心臓血管外科・金田浩由紀助教と耳鼻咽喉科・小西将矢助教の両名です。

この制度は、山下敏夫学長の強い意向により平成20年10月に規程化され、平成22年度から施行されます。教員を

対象とした本学独自のもので、若手医師が国内外のトップクラスの医療施設に留学することにより、最先端の診療技術の習得や診療体制の体得をし、世界で通用する医師を育成するとともに、本学の診療レベル向上を大きな目的とします。従来の各領域の専門医、指導医のレベルを超えたスーパードクターを目指します。

留学期間や留学先、施設等は下表のとおり。

2010(平成22)年度 高度医療人育成制度による臨床留学者

講座名	氏名	職名	留学期間 (平成22年度内)	臨床留学先、施設名称
胸部心臓血管外科	金田 浩由紀	助教	平成22年8月17日～ 同年11月20日	1.Toront General Hospital 2.Dana-Farber Cancer Institute 3.Memorial Sloan-Kettering Cancer Center 4.国立がんセンター中央病院、大阪府成人病センター
耳鼻咽喉科	小西 将矢	助教	平成22年9月1日～ 平成23年3月31日 (期間延長予定あり)	1.Casa di Cura Privata,Gruppo Otologico, Piacenza,Italy

内科学第一講座・伊藤講師が今年度の日本医師会医学研究助成費授与される

このほど、内科学第一講座・伊藤量基講師の研究する「I型インターフェロン制御を目的としたトロンボモジュリンの抗炎症作用機序の解明」が平成21年度日本医師会医学研究助成費を授与されました。

11月1日(日)日医会館大講堂行われた第62回日本医師会設立記念医学大会で発表されました。同助成費は、医学上将来性に富む研究を行っているものに毎年1回、基礎医学・社会医学・臨床医学を通じ15件に授与され、伊藤講師がその1人に選ばれました

## 学 事

## 平成22年度推薦入学試験 結果

試験日：平成21年11月22日(日)

場 所：関西医科大学滝井キャンパス

選考方法：小論文、適性検査、面接

合格発表日：平成21年11月27日(金)

※なお、一般入学試験は今年30日(土)に大阪アカデミアで実施します。

募集人員	20名
志願者	61名
受験者	60名
合格者	19名

## 国試対策講演会・懇親会開催

医師国家試験受験を控えた学生を対象に、11月13日(金)午後6時から守口ロイヤルパインズホテルで国試対策協議会、慈仁会、同窓会加多乃会の共催による国試対策講演会が開催されました。山下敏夫学長、金子一成代表世話人、藪田精昭教務部長を始め、加多乃会の鮫島会長、同窓会の四方伸明副会長、教職員16名、学生82名が参加しました。

講師には自治医科大学先端医療技術開発センターの小林英司客員教授を迎え、「医師国家試験対策ゼミ 目指せ!全員卒業、全員合格」と題し約1時間にわたって講演がありました。また、小児科の木下洋准教授からも本学の臨床研修内容についての話がありました。

講演会后、同ホテルにて午後8時から激励を兼ねた懇親会が開催されました。多くの学生や教職員が参加し、教員からの応援メッセージを受けた学生が国家試験合格率100%を誓い、盛会裏に終わりました。

## 留学者発表会・交歓会開催

## 医化学・陸さんら3名に優秀賞

本学に留学する研究者と留学生の発表会・交歓会が12月16日(水)、守口ロイヤルパインズホテルにおいて留学者11名と学長はじめ教職員10名の参加を得て開催されました。

留学者発表会は、午後4時から、留学研究賞授与の後、留学者からの自己紹介に続いて、研究活動の内容、自国の文化、本学での生活など多様な内容を盛り込んだ発表があり、教員との質疑応答が行われ、終始和やかな雰囲気で行われました。

引き続き、教職員との親睦と、留学者を激励する目的で交歓会が開催され、盛会裏に午後7時に終了しました。

また、留学者発表会における発表内容等を審査し、上位3名に優秀賞の贈呈を行いました。

受賞者は次のとおり。

- 1等賞 陸 景珊 (医化学講座 大学院4年)
- 2等賞 石 明 (病理学第一講座 大学院3年)
- 3等賞 Trifonov Stefan Venelinov (解剖学第二講座 大学院3年)



発表する留学者

平成21年度関西医科大学留学研究賞  
優秀な研究論文、学長から授与

学長から表彰されるステファンさん

本学の留学生、留学研究者が本学に滞在中に所属教室から発表した優秀な研究論文を褒賞するため、10月に募集を行い、応募論文を国際交流委員会で審査した結果、次のとおり授与が決定しました。授与式は12月16日(水)の留学者発表会の席上において執り行われ、学長から賞状並びに副賞として名前入りのクリスタルクロックと賞金が授与されました。

- 受賞者 Trifonov Stefan Venelinov  
(解剖学第二講座 大学院3年 ブルガリア出身)
- 論文題目 *IN SITU* HYBRIDIZATION STUDY OF THE DISTRIBUTION OF CHOLINE ACETYLTRANSFERASE mRNA AND ITS SPLICE VARIANTS IN THE MOUSE BRAIN AND SPINAL CORD

## 病 院

## 附属枚方病院

平成21年度の第1回看護研究発表会を開催

## 400名で熱気、21演題に活発な意見交換

平成21年度第1回看護研究発表会(本学看護部主催)が11月14日(土)午前9時から第1会場13階講堂、第2会場合同カンファレンスルームにおいて行われました。新型インフルエンザの影響が心配されましたが、枚方・滝井の両附属病院看護師、附属看護専門学校生ら約400名もの参加があり、活発な意見交換が行われました。

今回は院外で発表し、受賞した演題や看護学生の発表もあり、参加者には大変好評でした。また癒しの空間として、各病棟での「フィッシュの取り組み」などを紹介したことが、参加者に興味を持たせ、新たな取り組みの参考になったようです。

受賞演題の2題、第54回日本透析医学会コメディカル賞受賞「療法選択外来指導に向けた腹膜透析離脱患者の意識調査」を滝井3S病棟・加藤千恵子看護師が、関西医科大学同窓会塩崎安子賞受賞「術後合併症により発症したHigh Output瘦孔のケアと栄養管理」を枚方9S病棟・篠原良美看護師がそれぞれ発表。その他、19の演題が披露されました。

次回は平成22年2月27日(土)に附属滝井病院で開催の予定です。

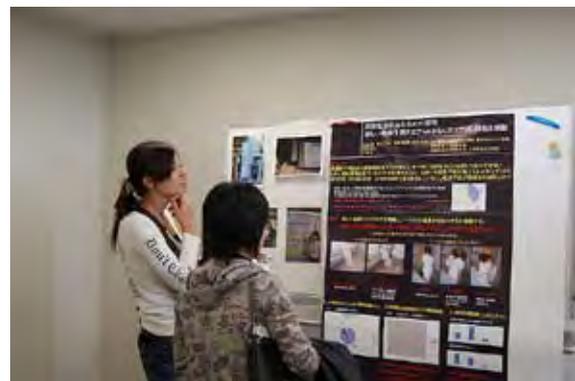
フィッシュ(Fish)とは、英語で「魚」のことですが、ここで言うフィッシュとは、アメリカの西海岸シアトルの魚市場で生まれた行動指針です。パツとしなかった「バイクプレイス魚市場」という所のオーナーと従業員は、「世界的に有名な魚市場になろう」と決心し、仕事をする上で何が必要かを考えたそうです。そこで生み出されたのが「4つのフィッシュ哲学」です。この哲学のおかげでバイクプレイス魚市場は、やりがいのある職場に変身し、今では活気に満ちた場所として有名になりました。

## 【4つのフィッシュ哲学】

① 仕事を楽しむ…仕事に遊び心をもって楽しく働こう。



インフルエンザが心配されたが、いっぱいになった会場



「フィッシュの取り組み」の展示に見入る参加者

- ② 人を喜ばせる…人の満足を得るには、まず喜ばせよう。
- ③ 注意を向ける…いまそこにある仕事に心を集中させよう。
- ④ 態度を選ぶ …辛い仕事も、自分で決めてやりがいを持とう。

## 秋季消防訓練を実施 「フーツすごい」屋内消火栓を実体験



放水訓練する看護師さんたち

12月2日(水)午後3時30分から、秋季の消防訓練が実施されました。開院以来、より多くの職員が消防訓練を実体験できるよう、5階病棟を皮切りに毎回N側の病棟を出火場所として、出火階とその直上階のスタッフを中心に実施してきましたが、今回は、12N病棟まで一巡したことから、出火場所をS側に変更して、6S病棟が出火場所と想定し訓練が行われました。

参加したスタッフは本番さながら真剣に取り組み、充実した訓練となりました。訓練終了後には、地下ドライエリアにおいて、実際に廊下に設置されている屋内消火栓を使用して放水訓練も行われました。

## 病 院

## 附属枚方病院

近隣の中学生が職場体験

## 有意義な一日、初体験に感動

11月10日(火)から13日(金)までの延べ4日間、近隣中学生の職場体験が実施されました。参加したのは、枚方市の樟葉中学校と市立第一中学校から計7名の生徒さん。将来の夢がお医者さん、看護師さん、薬剤師さんということもあって、実際に患者さんを看護する病棟を中心に病院での仕事を体験してもらいました。

臨床現場では、生後間もない赤ちゃんに触れたり血圧測定や心臓の音を聞くことによって、生命の尊さや大切さ、ぬくもりを感じていました。また直接患者さんと接する場面では、人と人とのコミュニケーションの難しさも実感したようです。中学生の皆さんは、将来の自分の姿と重ね合わせ、それぞれが“有意義な一日”と初体験に感動しきりでした。



病棟の看護師さんと記念撮影



赤ちゃんに触れ生命の尊さ実感

外務省巡回医師団

## 西山教授を団長にアフリカ3カ国を訪問

## 高野さん体験記 エイズの蔓延に心痛む

平成21年度外務省巡回医師団(アフリカチーム)として公衆衛生学講座の西山利正教授を団長に高野恵子看護師長(附属枚方病院5N病棟)らの一行が11月14日から25日までの12日間、アフリカのマラウイ、ザンビア、ブルキナファソの3カ国を巡回健康相談に訪れました。そこで、以下は現地で体験した高野師長の体験記です。

&lt;高野師長の体験記&gt;

健康相談では予想以上に多人数でした。西山先生の友愛的な診察で、体調不良について相談しやすかったようで、みんな笑顔になっていました。また事前に私が

助産師であることを聞かれ、妊婦の悪阻や婦人科疾患の相談等があり、私のライセンスを活かす貢献ができました。各国の国立病院や国立大学病院、診療所等を視察した際は、20~30年前の日本の医療状況にワープした感じで、マラリアの高罹患率やエイズの蔓延にも心が痛みました。今回の巡回で日本がいかに豊かで安全な国であり、また、恵まれた環境にあることかをあらためて感謝する日々でした。

スケジュールはタイトでしたが、各大使館関係者のはからいで無事任務を遂行し、帰国できました。また地元のレストランでは、地元の人の主食、シマ&ビーフカレーを手で食べるということも体験いたしました。

## ■外務省巡回医師団

外務省と国際医療団、労働福祉事業団と海外邦人医療基金では共同して、年間10チーム以上の巡回医師団を世界中に派遣し、在留邦人のための健康相談を無料で実施しています。巡回地によっては、海外の病院と提携し、現地病院の機能を活用し、健康診断を実施しています。日本語で直接相談可能な点が日本人会に好評を博しています。



現地の病院スタッフと記念撮影

## 病 院

## 附属滝井病院

拠点病院 第3回災害訓練を実施

## 模擬患者のメイク・演技も本番さながら

11月7日(土)第3回災害訓練を実施しました。今回は午前9時30分頃、患者搬送中のヘリコプターが濃霧のため墜落し、京阪土居駅にさしかかった準急電車と衝突、負傷者70名が発生し、近隣の災害拠点病院である本院に約50名が搬送されたとの想定。

対策本部・トリアージポストの設置、トリアージ後の搬送など各ゾーン別訓練が行われ、その後、本館6階大講堂で模擬記者会見を開き、万一の時あわてないように設営の段

取りや記者への質疑応答形式で実施されました。

訓練に参加したのは、守口市・門真市・大東市・四條畷市・交野市の消防本部からの応援部隊と模擬患者74名(附属看護専門学校49名、大阪医専25名)、職員126名で総勢200名以上の大規模なものとなりました。模擬患者のメイク・演技も本番さながらで、参加者全員が真剣に取り組み、充実した訓練でした。



消防隊トリアージポスト



消防本部から搬送された場合の模擬訓練

## 夜間に病棟で出火 検証消防訓練

## 消防署立会い、防火意識の高揚を図る

11月13日(金)午後3時30分から、検証消防訓練を実施しました。参加者はスタッフ48名、守口消防署員6名の総員54名で行いました。

今回は、夜間6S病棟を出火場所に想定した通報・消火・

避難を検証するもので、自主防火体制の強化及び防火意識の高揚を図るため、守口消防署立会いの基に大学と合同で実施しました。

## 第12回市民公開講座

## 2月6日守口エナジーホールで開催

## 「ここまで進んだガン治療」をテーマに4題

第12回市民公開講座は、下記の日程で開催します。受講料は無料です。みなさまのご参加をお待ちいたしています。

開催日時：平成22年2月6日(土)14時00分～16時00分

開催場所：守口文化センターエナジーホール

(京阪守口市駅前)

受講定員：約400名

テーマ：「ここまで進んだガン治療」

講演内容：

「ここまで進んだ胃ガン治療」外科 中井宏治 助教

「からだに優しい胃・大腸がんの内視鏡治療」

消化器肝臓内科 西尾彰功 准教授

「ここまで進んだ肺ガン治療」

血液呼吸器膠原病内科 清水俊樹 講師

「緩和ケアチームの活動について」

看護部 山岡月子 副師長

お問い合わせ先：

附属滝井病院管理課「市民公開講座」担当係

電話06-6993-9682

## 卒後臨床研修センター

平成21年度臨床研修指導医養成講習会を2回開催

### 望ましい指導のあり方や方法を学ぶ

平成21年度臨床研修指導医養成講習会が、11月28日(土)～29日(日)と12月19日(土)～20日(日)の各々2日間(1泊2日)、神戸市の「スペースアルファ神戸」において開催され、参加者が研修医を育成する能力、指導する上での知識等を学びました。厚生労働省が定めた指針に則って開催された講習会へ参加し修了証書を得ることが指導医となるための必須条件となっており、この講習会もその一環です。

本学附属病院を中心に協力型臨床研修病院の医師が参加し、第1回38名、第2回35名が修了いたしました。学外のディレクター、タスクフォースとして、NPO法人卒後臨床研修評価機構・岩崎榮専務理事(第1回)、聖路加国際病院・福井次矢病院長(第1・2回)、名古屋大学医学部附

属病院総合診療科・伴信太郎教授(第2回)、金沢大学附属病院総合診療部・野村英樹准教授(第1回)を迎え、その他、学内関係スタッフが参加、ワークショップ形式で、全体討論、グループワーク、ミニレクチャーを交互に繰り返して進行されました。

講習会では、臨床研修の問題点、学習の目標・方略・評価、指導医のあり方などについてのワークショップを通して臨床研修指導のあり方を理解し、また卒後臨床研修におけるカリキュラムの立案能力ならびに望ましい指導方法を習得するなど、参加者にとって有意義な2日間となりました。

講習会修了者に対しては、厚生労働省医政局長から公式認定の修了証が交付されました。



グループ討議する参加者



グループワークをもとに行う全体討議

## 本学の未来図を語りあった夜も印象深い!

指導医養成講習会に参加して 附属枚方病院 消化器肝臓内科 廣原 淳子准教授

紅葉も目に鮮やかな11月28日～29日の2日間、「スペースアルファ神戸」での「臨床研修指導医講習会」に参加しました。本学における臨床研修指導医の能力向上を目的として本研修会は毎年行われています。ディレクターとして卒後臨床研修評価機構岩崎榮先生、チーフタスクフォースとして聖路加国際病院院長福井次矢先生を迎え、学外および学内タスクフォース16名の指導のもと、附属枚方・滝井病院の教授から助教までと協力型臨床研修病院からの計40名が朝9時前には参集し開講しました。まず6～7名のスモールグループ(SG)に分かれ「もみじ」「はにかみ」などおおよそ似つかわしくないSG名を自ら名付ける事から始まりましたが、これがアイスブレイキングという頭の切り替え作業であることや耳慣れない医学教育学用語を理解する間もないままにスケジュールは進行していきます。「医師患者関係」「異業種間コミュニケーション」などSG毎の課題別

に6回のワークセッションでの討論・発表・ロールプレイからディベート、その合間のミニレクチャーと普段使わない脳の部分が活性化されたかのような時間が分刻みに続きました。

最後に伊藤誠二副学長から「修了証書」を拝受し、一同、疲労困憊(こんぱい)状態で帰路についたのでした。後日、病院内で顔を合わせた参加者達はしばらく「大変でしたネエ」が挨拶がわりとなりましたが、隔離された環境で凝縮された時間を共有することで、ある種の連帯感が生まれたと感じたのは私だけではないと思います。この2日間で果たしてどれ程指導医資質が向上したかは疑問ですが、医学教育を超えて本学の未来図を語りあった夜も印象深いものとなりました。最後に前日の夜から現地入りされ未明まで準備していただいたタスクフォースの先生方および事務局の方々に御礼を申し上げます。

## 卒後臨床研修センター

## 有意義な経験、今後の指導に役立つ

指導医養成講習会に参加して 附属枚方病院 眼科 埜本 慎講師

この度、平成21年11月28日～29日の2日間、スペースアルファ神戸で行われた、臨床研修指導医養成講習会に参加させていただきました。終了して直後の感想は率直に疲れたという言葉でしたが、今あらためて内容を振り返るとかなり有意義なものであったと思います。もともと研修医指導というと、当科入局者に対して、自分の持っている知識と技術を自然に伝えていくというスタンスでしかなく、臨床研修システムの変革に対応しきれていない部分がありました。つい最近でも、どうやって眼科に興味を持ってもらって、入局意欲に結びつけるかというスタンスで、指導をしてきたように思います。講習会では、さまざまなワークショップに参加し、理論に基づいた指導を考える機会を得て、教育そのもの

を根本から考えるいい経験ができました。臨床研修指導には目標設定が重要であること、また目標を達成出来たかの確かな評価方法が必要であること、そしてその評価を本人にフィードバックすることが研修医の成長に不可欠であること等、さまざまなことを学びました。いままで何となく行ってきた研修医指導は、自然に正しい方法になっているものもあり、また見直すべきものもあり、とにかく講習会が今後の指導に役だつものであったのは間違いないです。日にちが経ち、身体の疲れの記憶は薄らぎましたが、学んだことの記憶が薄らぐことのないように、今後も研修医指導に励みたいと思います。最後に、講師の先生方、関係の方々には感謝をしたいと思います。ありがとうございました。

## 重要な「聞くこと」「話すこと」「共感すること」

卒後臨床研修センターとしては初めてとなる看護副師長研修会がシティプラザ大阪で11月20日(金)開催されました。附属2病院、香里病院準備室、男山病院の副師長さん58名が参加しました。「モチベーションを高めるコミュニケーションスキル」をテーマに副師長として部下育成にいかに関わるかなどを学びました。受講した2名の副師長に感想文を書いてもらいましたのでご覧下さい。

## 看護副師長研修会を開催して

卒後臨床研修センター看護実践支援部門長  
内田 静子

これまで看護職員に対する卒後の継続教育は、関西医科大学附属の各病院看護部がそれぞれ独自に研修を実施していましたが、昨年4月、関西医科大学の看護職員に対して研修を実施し、臨床看護技術の向上を図り、働きやすい職場環境の改善に資する目的で、卒後臨床研修センター内に「看護実践支援部門」が設置されました。

看護実践支援部門では、関西医科大学の理念「慈仁心鏡」に基づき、患者中心の質の高い医療を提供するために、教育の充実を図り、看護実践に優れた看護職員の育成を図るために看護実践支援部門のミッション、教育目標、看護職員の行動指針を作成しました。

看護実践支援部門では、関西医科大学の理念「慈仁心鏡」に基づき、患者中心の質の高い医療を提供するために、教育の充実を図り、看護実践に優れた看護職員の育成を図るために看護実践支援部門のミッション、教育目標、看護職員の行動指針を作成しました。

＜看護実践支援部門のミッション＞

関西医科大学の看護職員のコンピテンシー育成

\*コンピテンシー

各自の能力・資質を行動化し、成果に繋がる総合的な能力・行動特性

＜看護実践支援部門の教育目標＞

- 1.看護専門職業人としての知識・技術の向上 (Speciality)
- 2.指導能力の向上 (Leadership)
- 3.組織及び業務管理能力の向上 (Management)

＜看護職員の行動指針＞

- 1.自己の看護実践を振り返り、それを理論的に解明し次の看護実践に生かす
- 2.研修成果を看護実践に活用する

これを基本として研修を企画し、第1回研修を11月20日シティプラザ大阪において開催しました。対象は関西医科大学に勤務する看護副師長で「モチベーションを高めるコミュニケーションスキル」～きりと輝く看護副師長を目指しブラッシュアップする秘訣を学ぶ～をテーマに、教育・研修コンサルタント「ダブルアイズ」代表・岩井美詠子先生を講師に招き実施しました。附属枚方病院 30名、附属滝井病院 23名、香里病院準備室 2名、美杉会男山病院 3名の計58名が参加し、「観ること」「聴くこと」「話すこと」「共感すること」の重要性、自己のコミュニケーションの特徴を知り、部下育成に副師長としての関わり方等、活発なディスカッションを通じた実践的な研修で、終了後の感想は明日への活動に活かしたいという声が多数ありました。

## 卒後臨床研修センター

# 価値観はそれぞれ、自分を変えることは重要だ

看護副師長研修を受講して

附属滝井病院 5 S 病棟

梶原 美絵 副師長

日頃の多忙な病棟の環境を離れ、少しリラックスしていたが、管理者研修という名目上、何かすごく難しい研修なのではないかと参加するまでは不安がいっぱいでした。

研修は講義と演習を織り交ぜながら受講生が積極的に参加する形で進行了。その中で特に私の印象に残ったのは、価値観チェックゲームの演習でした。権力・健康・学歴・愛情・名誉・金銭の中から自分にとっての優先順位をつけ、グループワークでその理由づけを話しながら、話し合っただけで気づいたことを報告し合いました。グループメンバーの中に全く一緒の価値観の人はおらず、同じ副師長という立場であっても、その人それぞれの環境や経験によって影響され、そのときの影響によって価値観というものは変化する。まず相手を受け入れること、相手を否定しないこと、相手を変えるのではなく、自分を変えることの重要性を学びま

した。そのためにはコミュニケーションスキルが欠かせないものであり、「よい聴き手」「よい話し手」とは相手と向き合うことが必要だと感じました。

私達は日々の業務の中で、患者・家族・部下・上司など様々な立場の人と関係をもちます。毎日多くの人と接し、よい人間関係の中で仕事ができる環境にしたいと思っておりますが、うまくいかないことが多いような気がしていました。しかし、今回の研修を通して私達、副師長がうまく働きかけることで、業務が円滑に進行し、スタッフの成長に繋がることを学びました。コミュニケーションスキルはどのような場面でも基本であり、永遠のテーマです。この研修を生かして部署での教育的な関わりを実践し、看護実践能力の向上に力を注ぎたいと思います。

## 自己のブラッシュアップの決意を新たに

看護副師長研修での学び

附属枚方病院 5 N 病棟

伊地知 仁美 副師長

看護副師長研修は最良の環境のもとで受けることができ、内容はもちろん企画・運営にも心配りを感じ、全てが学びになりました。

コミュニケーションには「観る」「聴く」「確認する」「共感する(納得する)」の4つの原則があり、いかに自己の思い込みを無くした上で素直に相手の話を聴き、そして素直に自己の気持ちを伝える事ができるかがポイントです。それはまた相手の成長を認め、「褒める」事も最良の人間関係を作る近道であり、モチベーションを高めるコツであると学びました。この事は、今年度の枚方病院の看護部目標である

「フィッシュを取り入れ働きやすい職場を作る」にも通じる所があり、すべての人々の言葉を今以上に、しっかり聴き、そして相手を認める関わりが出来るよう、自己をブラッシュアップする決意を新たにしました。

今回の研修は、副師長である私達に大きな期待が寄せられているのだという事を実感しました。これからの次代を担う後輩看護師達のモデルとなり、又、看護教育者として研修で学んだコミュニケーションスキルを活かし、職場のモチベーションアップに貢献できるよう取り組んでいく所存です。



円卓で講師の話を聞く副師長さんたち



グループごとに活発なディスカッション

## 医療安全管理センター

## 第6回医療安全大会 過去最大の参加者、3会場を同時中継



11月27日(金)午後5時30分から、附属枚方病院13階講堂・合同カンファレンスルームと附属滝井病院南館2階臨床講堂の3会場を同時中継し、医療安全管理センター主催の第6回医療安全大会(写真)が開催されました。塚原勇理事長、山下敏夫学長の出席をはじめ、枚方地区262名、滝井地区145名、香里病院準備室4人、大学その他29人で計440名という過去最大の参加となりました。本大会は、大学職員の医療安全に関する知識の向上を図る事を目的に毎年実施しています。

医療安全管理副センター長・宮崎浩彰講師が司会進行、今村洋二附属枚方病院長が開会の挨拶、滝井会場は、塚原理事長の挨拶で始まりました。

枚方会場は、岡崎和一医療安全管理部長が座長となり、(1)中央放射線部・三根強技師の「体内遺残のハリがレントゲンでみえるか?」(2)救急医学科・富野敦稔助教の「BLSプロジェクトチームの取り組みについて」(3)看護部転倒転落防止プロジェクトチームを代表して諏訪照美看護師の「新しい転倒予測スコアによる転倒予防研究」の3題が発表されました。

滝井会場は、室田卓之医療安全管理部長が座長となり、(1)脳神経外科・櫻井靖夫助教の「脳神経外科におけるセーフティマネージメントの新しい試み」(2)薬剤部・田中久美子薬剤師の「医療安全全国共同行動医療安全フォーラムに参加して」の2題が発表されました。最後に高田秀穂副病院長の閉会の挨拶で大会を終えました。

3会場とも満員の盛況で、活発な議論が行われました。なお、講演会の様子は学内の端末からイントラネットの講義・講演会動画コンテンツで視聴することができます。

\*BLS(Basic Life Support)とは、心肺停止状態の人に對して行う救命措置のこと。

## 附属看護専門学校

## 今年で24回目、患者さんへの感謝忘れずに

附属看護専門学校では、キャンドルサービス(写真)を附属滝井病院で12月18日(金)午後4時40分から行いました。看護学生257名が分担して病室を訪問しました。牛嶋百合子教務部長とキャンドル委員リーダー須井麻弥さんの話を掲載しました。

「患者さんに少しでも安らぎを」  
教務部長 牛嶋 百合子

附属看護専門学校が高殿に移転して30年、キャンドルサービスは、今年で24回目になります。

この時期、病院での生活を余儀なくされる患者さんに、少しでも安らいでいただける事を願って続けてきました。開催に当たっては、附属滝井病院の高橋伯夫病院長をはじめとする職員の方のご協力で無事行う事が出来ました。

キャンドルサービス委員リーダーの3年A組須井麻弥さんは、最後のまとめで、「キャンドルサービスは、ご家族や大切な方と離れて入院生活を送られている患者さんに、少し



でも元気になっていただき、一日でも早い回復をとの願いをこめて行わせていただきました。実習でお世話になっている患者さんへの感謝の気持ちを忘れず、今回、患者さんから頂いたお言葉を胸に刻み、今後の私たち1人ひとりの看護へとつなげて行きましょう」と挨拶しました。

## 同窓会

## 表彰された同窓生

須藤 昭子氏(17回生)

## 社会貢献支援財団より「困難な状況の中で多年にわたり努力し、社会の安寧や人々の幸福のために尽くした功績」により表彰される

須藤昭子氏(クリスト・ロア宣教修道女会シスター)昭和24年卒内科研修、学位取得。

ご本人から「おとづれ」誌上に定期的に寄せられている手紙の直近のものを引用します。

24年前よりクリスト・ロア宣教修道女会本部(カナダ)からハイチ共和国へ派遣され、ハイチ国立療養所勤務、過酷な条件下多くの伝染病患者の治療にあたる。80歳退職、植林と農業でハイチを救いたいとGEDDH(ハイチ自然環境の発展を長期に目指すグループ)の若者達に協力、日本の国際すみ焼き協会の指導のもと、NGO法人の認可を得る予定。

援助金の取次ぎ→同窓会事務局 ご協力お願いします  
「おとづれ」編集部

2009年12月吉日

日本の恩人、友人の皆様

クリスマスのお喜びと新年のご挨拶を今年は東京から申し上げます。

久し振りに日本でお正月を迎えられる喜びは又ひとしおのところですよ。私は11月8日に日本に帰ってまいりました。と申しますのは11月24日に社会貢献支援財団より「困難な状況の中で多年にわたり努力し、社会の安寧や人々の幸福のために尽くした功績」ということで表彰を頂いたからです。私にとっては、こうした表彰を頂いたのは皆様からのご援助があればこそですから、皆様に感謝しなければなりません。本当にいつも寛大な援助をして下さってありがとうございます。

さてハイチの状態をお話いたしましょう。私と一緒に活動しているGEDDHのメンバーは実によく活躍しています。今



植林を学びに来た若者と共に

年になって、ラジオで毎週1回植林の必要性について環境問題を説明しながら放送しています。要請のあるところには出かけて行って、セミナーを開き、実習させています。話だけでなく、実習があるということが大変喜ばれ、評判がよく、そこで望まれればGEDDHの支部をつくれます。現在は13カ所に支部があり、各所に責任者を置き、連絡を取り、年に1回の総会には代表者が集まります。今までにした植林数は40,000本ですが支部でした数をいれるとどのぐらいになるかわかりません。ハイチの若者たちが自分の国を建てなそうと、積極的に自ら計画を立てて働くのです。これも皆様から頂く援助でこれらのことが可能なのですから感謝いたします。私はハイチを救うためにはどうしても植林をしなければならぬと思っています。ハイチの禿山をご覧になったらきつとびっくりなさるでしょう。幸いなことに今年は去年のような大きな、数回にわたるハリケーンがありませんでしたが、一寸した雨でも禿山から土砂が流れて洪水はおきています。

政治的不安定は相変わらずで、10月末に外国からも信頼のあった首相、マダム ミシェル ピーエル ルイが辞任させられ、未だ次の首相は決まっていません。去年は5ヵ月も首相の空席がありました。

修道会ではハイチ管区で初めてハイチ人の管区長が生まれ、また修練長もハイチ人になりました。3人の修練者がいます。大勢ではありませんが、絶えることなく、続いています。

ハイチでミッションを始めた者の一人として大変うれしく、元気で頑張っています。私はハイチでの最高年齢者です。暑さにふうふうしながらも頑張っています。これも皆様のお祈りのおかげでしょう。

主の祝福を皆様の上に祈りつつ、感謝をこめて、ご報告申し上げます。

シスター 須藤 昭子



シスター須藤さんと竹の苗木

## 同窓会

## 緒方 文江氏 (16回生)

## 「秩父宮章」と「佐賀新聞文化賞」を受賞



秩父宮章賞状と記念品

緒方文江氏は、医師として活躍する傍ら、長年スポーツを通じて青少年の健全育成に取り組んでこられたことが評価され、10月の新潟国体開催時に秩父宮賞を、11月には、地元佐賀の佐賀新聞文化賞を受賞されました。

「運動と栄養学の関係、精神科医としては、勝者・敗者の心の支えとなるよう努力してきました」とのコメントがありました。



佐賀新聞文化賞を手にする緒方さん

## メディア情報

## 教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。

(平成21年11月5日～12月31日)

谷川 昇 准教授 (放射線科学講座)	週刊朝日 増刊号 新「名医」の最新治療 2010年 11月30日(月)号	この病気はここまで治せる!全国168人の「名医」のひとりとして登場。整形外科の急性腰痛治療の「経皮的椎体形成術(骨セメント療法=PVP)」を実施している病院の医師として紹介されています。
附属枚方病院 附属滝井病院	週刊朝日 新年合併号 12月22日(火)号	病院選びの新機軸!「全国4956病院の手術数総覧・後編(滋賀～沖縄)」に両附属病院が掲載されています。厚生労働省が指定する難度の高い手術を厚生局に届けた2008年1年間(1月～12月)の症例数です。

## メディア情報をお待ちしています

教職員の方々がメディアに登場された場合に掲載させていただきます。このコーナーは、皆様からの情報提供によって構成されます。テレビ出演が予定されている時は、前もって右記の情報連絡先までお願いします。

なお、このメディア情報欄に紹介するのは、朝日、産経、日経、毎日、読売の5大紙およびNHK・毎日・朝日・関西・読売の各テレビ局、主要な月刊誌、週刊誌等に取り上げられたものに限定させていただきます。

## 情報連絡先

総務部広報課 電話 06-6993-9672(内線 2138)  
e-mail kmuinfo@takii.kmu.ac.jp

## 「地球の歩き方 ラオス」を発売

## 海外渡航外来が一部監修

附属滝井病院渡航外来による一部監修の「地球の歩き方 ラオス(Laos)」(ダイヤモンド・ビッグ社出版)と題したガイドブックが、このほど発売されました。

「旅の準備と技術」項目の旅の健康欄に「健康維持に

努めよう」、「ラオスでかかる病気と対策」として

(1)おもに食べ物から感染するもの

(2)動物や虫が媒介する病気、

そして「出発前のワクチン接種」などがわかりやすく解説されています。

## お知らせ

## 関西医科大学 概要2009 発行

このほど「関西医科大学概要 2009」を発行しました。

A4判、52ページ、CONTENTS

建学の精神、中長期経営ビジョン、沿革、医学部の教育目標とカリキュラム、大学院と研究活動、学術関連施設、大学附属病院、附属看護専門学校、卒後臨床研修センター、歴史資料室など。今回は、データ編を後半に分離して掲載しているのが特徴。

なお、この冊子をご希望の部署または教職員の方は、若干在庫がありますので、大学事務局総務部広報課までご連絡ください。ただし、希望に添えかねる場合もありますので、ご了承ください。



## 2月12日 池原教授の最終講義

3月末で定年退職を迎えられる病理学第一講座・池原進教授の最終講義が2月12日(金)午後3時40分から同4時50分まで専門部学舎第一講堂で開催されます。

## 復活大学祭は2月20～21日に開催予定

新型インフルエンザの影響で中止となっていた大学祭(霜月祭)が2月20日(土)と21日(日)の2日間、牧野キャンパスを会場に行われることになりました。名称も含め詳しいことは1月下旬に決まる予定です。

## 訂正

Vol.7 10ページ「健康ハートで働こう」市民公開講座の記事中、「篠山重威院長」は「篠山重威医療法人大寿会理事」に訂正します。また、15ページの西医体成績欄の弓道男子個人戦「伊藤弘将 5位」は「植木秀伍 3位」に訂正してお詫びします。

## 設定温度は20℃ 省エネにご協力を

「地球を守ろう、温暖化防止」を合い言葉に本学では省エネルギーに関する取り組みを推進しています。冬本番を迎える季節となりましたが、冬季の室内設定温度は20℃です。重ね着など工夫いただき省エネルギーに努めていただきますようお願いいたします。

省エネルギーは地球環境を守るとともに経費節減にも繋がります。みなさまのご協力をお願いいたします。

## ホームページで閲覧できます

この広報誌は、関西医科大学と教職員、学生、同窓生、保護者を結ぶコミュニケーションツールの一つです。皆様からの記事の提供、企画、ご意見などありましたら、広報課までご連絡よろしくお願ひ致します。

なお、本学ホームページに既刊の「関西医科大学広報」をPDFファイルにて掲載しています。

## 送付先変更の場合、お知らせください

「関西医科大学 広報」の送付先の変更が生じた方は、お知らせください。官製はがき又は、ファックス等にて郵便番号・住所・氏名等を記入の上、お申し出ください。

## 編集後記

明けましておめでとうございます。広報誌も発刊して2回目の新年を迎えました。記事集めには、毎号苦勞しますが、出帆(創刊)から何とかVol.8まで漕ぎ着けました。

記事がない時は、「動物園に行け」とは社会部でよく言われる言葉ですが、大学では、さて何処へ?2巡目になるとマンネリ化が気懸かりになってきます。面白いアイデアやちょっとした情報でも結構です。いつまでも新鮮味ある広報誌を目指すために皆様の協力が欠かせません。気軽にお声がけ願ひします。

今回の新春号は、理事長・学長のメッセージをいち早く伝えるべく、新春気分が抜けない“旬”のうちに皆様の手元に届くよう発刊を早めました。理事長の「年頭所感」、学長の「新年のご挨拶」は、本学の近未来を明るく照らし、希望を感じることでしょう。香里病院も7月に開院します。「香里元年」と題して医療担当理事・新宮教授が寄稿して下さいました。

そして、今年は寅年。学長メッセージによると「動き始めるもの」。新学舎計画が本格始動し香里が開く最適の年とのこと。そういえば滝井から見た香里の方角は「寅」方向かな。語源由来辞典によると「寅」の本来の読みは「いん」。「寅」は「引」「伸」と同系の語で、草木が伸び始める状態を表すとか。なぜかワクワクしてきたのは、私だけでしょうか。

(M.N)

## 関西医科大学広報 Vol.8

発行 学校法人 関西医科大学  
編集 総務部 広報課  
〒570-8506 大阪府守口市文園町10-15  
Tel 06-6992-1001 (代表)  
Fax 06-6993-5221

http://www.kmu.ac.jp/  
E-mail kmuinfo@takii.kmu.ac.jp  
平成22年1月15日(金)発行